

第3学年2組 保健体育科学習指導案

指導者 教諭 北本 真司

1 日時 11月4日(金) 第5校時(3年2組教室)

2 題材 性感染症とその予防(エイズ)

3 題材について

- (1) 治療法の進歩により、HIVに感染したとしても長く生きることが期待できるようになったことで、社会ではHIV感染者が働き、学び、生活している。学校や社会生活の様々な場所でHIV/エイズに対する差別・偏見の解消を図り、HIV感染者が安心して生活できるようにすることが一層重要となっている。また近年、新規のHIV感染者・エイズ患者は毎年1500人程度で推移し、累計では25000件以上となっている。知っていても、わかっていても、具体的な行動が伴わなければ効果的なHIV感染予防につながらない。だからこそ、それぞれの立場から「予防・検査・治療・支援・理解」という具体的な行動をとることが求められる。そのためには、一人ひとりがHIV/エイズの正しい知識を得て、先の5つの行動をとることが重要である。
- (2) 本学級の生徒は男女間の仲がよく、性別関係なく誰とでも生徒同士の対話ができる。事前のアンケートでは、「エイズという病名を聞いたことがある」という生徒は97%で、その病気へのイメージは、「治らない恐ろしい病気」、「自分には関係のない病気」などが全体の70%以上とそれぞれ高かった。
- (3) 新学習指導要領改訂に伴って保健体育科では、資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びが求められる。それは、健康についての課題解決に向けて生徒同士が対話を繰り返したり、書物などを通して思考を深めたりといった「対話的な学び」の実現が求められる。また健康の意味及びそれらの価値に気づき、健康についての課題の解決に向けて自ら取り組んだり振り返ったりするなどの「主体的な学び」を実現したりすることが求められる。このような学び方を通して、HIV/エイズに対する正しい知識を身につけ、差別・偏見のない感染者と共生していける社会人になってほしいと考える。

4 学習指導目標

- (1) 主体的・対話的な学びにより、HIV/エイズに対する正しい知識を習得できる。
- (2) HIV/エイズが身近な問題であると認識でき、予防法などの必要性を理解する。
- (3) HIV感染者と共に生きていける社会の実現に向けて、適切な意志決定ができる。

5 学習指導計画(2時間)

- (1) 性感染症とその予防 …… 1時間
- (2) エイズ …… 1時間 (本時)

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ 主体的・対話的な学びにより、HIV/エイズに対する正しい知識を習得できる。
- ・ HIV/エイズが身近な問題であると認識でき、予防法などの必要性を理解する。

(2) 小学校のカリキュラムとの関わり

小学校では、健康の大切さや健康によい生活、病気の起こり方や予防などについて学習している。病原体がもとになって起こる病気として、インフルエンザ、結核、風疹、麻疹などが取り上げられている。

(3) 学習指導過程

学習活動	指導上の留意点及び支援活動 ○指導上の留意点 (評) 評価の観点	形態
1 挨拶・出欠報告・忘れ物調べ報告をする。	○ 気持ちのよい挨拶を自ら率先して行う。保体委員からの報告を受け、臨機応変に対応する。	一斉
H I V / エ イ ズ に つ い て の 正 し い 知 識 を 得 よ う		
2 班別に授業をする。 (各班持ち時間15分以内)	○ 先の班に授業が開始できるよう指示する。 ○ 時間の管理をする。 ○ 後の班に授業が開始できるよう指示する。 (評) 主体的・対話的な学びができたか。	グループ
H I V / エ イ ズ が 身 近 な 問 題 で あ る と 認 識 し 、 予 防 法 の 必 要 性 を 理 解 し よ う		
3 感染模擬体験をする。 ① プラスチックコップに水を入れる。 ② 席の隣の人と水を半分交換する。 ③ それぞれ違う4人の人と随時水を半分交換する。 ④ どれだけの人が感染したかを確認する。	○ 班長に道具を取りに来るよう指示する。 ○ 班ごとにペットボトルの水を容器に半分ずつ汲み分けるよう指示する。 ○ 代表1人のみ水酸化ナトリウム水溶液にする。 ○ まずは隣の人と交換するが、残り4人必ず違う人たちと交換するよう伝える。(5分以内) ○ 最初に1人だけ違う液体であったことを知らせ、その液体と交換していれば、フェノールフタレイン液を加えたとき、赤く染まることを伝える。 ○ 班長に、班員全員のコップにフェノールフタレイン液を加えるよう指示する。	グループ 一斉 個人
4 本時のまとめをする。	(評) 感染模擬体験から、自分も知らずに感染してしまう可能性があることが理解できたか。 (評) 感染を予防する上でも、正しい知識を得ることが大切であることが理解できたか。	一斉
5 挨拶をする。	○ 本時で得たH I V / エ イ ズ に つ い て の 正 し い 知 識 に つ い て 、 家 庭 で 復 習 し て お く よ う に 促 す 。	一斉

1. エイズ及び性感染症の予防の目標は2つ

- ① エイズの疾病概念や感染経路について理解できるようにする。
- ② 予防方法を身に付ける必要があることを理解できるようにする。



今回の授業内容や時間配当では、保健としてだけでは無理が生じる。そこで保健・総合・道徳の授業として、複合的に内容構成をしたと考えると、以下のような計画になる。

学習指導計画（10時間） ※HIV/エイズのみ

教科 時間	1	2～5	6～8	9・10
	オリエンテーション	班別調べ学習	班別授業発表	教師まとめ
保健			疾病概念や感染経路	疾病概念や感染経路
総合	班決め・流れ説明	授業発表準備 ※夏休みレポート	予防方法・治療法 エイズの歴史	予防方法・治療法 エイズの歴史
道徳			エイズに関する 日本・世界人権問題	エイズに関する 日本・世界人権問題

2. 指導計画と内容の取り扱いについて、保健・総合・道徳を複合的な内容構成にする考え方

①総合的な学習の時間

保健体育科の指導計画は、単に1教科としての観点からだけでなく、特別活動のほか、総合的な学習の時間や運動部の活動なども含めた学校教育活動全体との関連を十分考慮して作成することが必要である。

すなわち、保健体育科の目標は、要約すると「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことにあるが、これらは、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して達成されるものである。体力の向上や健康の保持増進を図るための教育活動は、教科としての保健体育科は当然であるが、関連の教科、特別活動、総合的な学習の時間、運動部の活動などの学校教育活動の中にも、それぞれ独自の性格をもちながら、多く含まれている。したがって、保健体育科の学習の成果が、他の教育活動と結び付き、日常生活で生かされるようにするためには、特別活動などとの有機的な関連を図って、保健体育科の目標がより効果的に達成できるよう指導計画を作成することが必要である。特に、今回の改訂においては、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成、健康の保持増進のための実践力の育成及び体力の向上の三つの具体の目標が相互に密接に関連をもっていることを示すとともに保健体育科の重要なねらいであることを明確にしていることなどから、これまで以上に学校の教育活動全体との関連を図り、指導計画を作成する必要がある。

補助資料②

② 道徳

学習指導要領の第1章総則の第1の2においては、「学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して適切な指導を行わなければならない」と規定されている。

これを受けて、保健体育科の指導においては、その特質に応じて、道徳について適切に指導する必要があることを示すものである。

保健体育における道徳教育の指導においては、学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、以下に示すような保健体育科の目標と道徳教育との関連を明確意識しながら、適切な指導を行う必要がある。

保健体育科においては、目標を「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」と示している。

集団でのゲームなど運動することを通して、粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力する、といった態度が養われる。また、健康・安全についての理解は、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見つめ直すことにつながるものである。

次に、道徳教育の要としての道徳の時間の指導との関連を考慮する必要がある。保健体育科で扱った内容や教材の中で適切なものを、道徳の時間に活用することが効果的な場合もある。また、道徳の時間で取り上げたことに関係のある内容や教材を保健体育科で扱う場合には、道徳の時間における指導の成果を生かすように工夫するとも考えられる。そのためにも、保健体育科の年間指導計画の作成などに際して、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期などに配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。